修士論文要旨

居住空間に使用する壁紙の色彩の印象に関する検討
～使用目的に応じた壁紙の適合性と壁紙による肌色の印象評価～

Impression of wallpaper color for housing
— Compatibility to the purpose of usage and the influence to the impression of the complexion by the wallpaper color —

國東　千帆里（Chihori Kunito）　　指導：齋藤　美穂

1．はじめに

我々の日常生活は様々な色彩に囲まれた環境にあり，それらの色彩から心理的影響を受けている。本研究では壁紙の色彩による心理的影響について検討を行い，更に肌の色をきれいに見せる壁紙の検討も行う。

2．目的

本研究の目的は，研究Ⅰ：壁紙の色彩の印象評価，研究Ⅱ：壁紙による肌色の印象評価，研究Ⅲ：居住空間の使用目的に応じた壁紙の色彩の適合性の検討である。

3．手続き

本実験は濃度の低い壁紙を中心とした実験Aと濃度の高い壁紙を中心とした実験Bに分けて実施した。被験者は実験Aが男性27人，女性44人の計71人，実験Bが男性30人，女性38人の計68人であった。刺激は「サーマルデコ（大日本印刷製）」を印刷した赤，黄，緑，青，橙，無彩色の濃度50，濃度200の壁紙，印刷紙，印刷紙にパールを格子状に印刷した刺激を加え，計14刺激を使用した（表１）。これらをコの字型パネルに貼り付け，D65光源の真下に設置した。SD法を用い，壁紙に対する印象評価（研究Ⅰ），壁紙を背景とした時の被験者の内腕の肌色に対する印象評価（研究Ⅱ）を行った。最後に自分の家をコーディネートするとしたら，それぞれの壁紙をどの部屋に用いたいか複数選択可とし回答させた（研究Ⅲ）。使用した形容詞対と項目を表２に示す。

表１　壁紙の測色値（L*a*b*値）

		赤50	黄50	青50	緑50	橙50	印刷紙		
実験A	L*	91.28	91.73	90.24	90.66	91.31	94.78		
	a*	−3.64	−6.58	−7.29	−9.87	−3.45	−6.11		
	b*	10.99	16.36	7.30	12.53	13.69	9.81		
		赤200	黄200	青200	緑200	橙200	無彩色50	無彩色200	パール
実験B	L*	83.60	85.98	81.13	83.03	84.07	93.08	87.88	96.22
	a*	3.69	−4.42	−9.81	−19.24	0.78	−6.15	−5.13	−6.13
	b*	15.38	32.47	1.30	18.97	23.55	8.59	5.62	10.78

表２　使用した形容詞対と項目

研究Ⅰ（壁紙）	明るい-暗い	冷たい-暖かい	重々しい-軽やかな	男性的な-女性的な	好きな-嫌いな
	落ち着きのある-落ち着きのない	若々しい-年寄りじみた	平凡な-個性的な	美しい-美しくない	親しみやすい-親しみにくい
	センスの良い-センスの悪い	上品な-下品な			
研究Ⅱ（肌色）	活動的な-非活動的な	はっきり-ぼんやり	澄んだ-濁った	陽気な-陰気な	若々しい-年老いた
	色白の-色黒の	健康な-不健康な	上品な-下品な	清楚な-華やかな	自然な-不自然な
	きれいに見える-きれいに見えない				
研究Ⅲ	1.リビング	2.ダイニング	3.和室	4.トイレ	5.洗面所
	6.寝室	7.子供部屋	8.廊下・階段	9.玄関	10.自分の部屋

4．結果と考察（研究Ⅰ：壁紙の印象評価）

壁紙の印象評定値に有意な差があるか検討を行うために分散分析を行った。実験Aでは「年寄りじみた」項目で橙50の得点は有意に高く（$F(5,355)=9.573$, $p<.001$），橙50は他の壁紙よりも年寄りじみた印象をもたれたことがわかった。橙の壁紙が慣れ親しんだ壁紙の色彩と認識されたため，新奇性がなく年寄りじみて感じられたと考えられる。また印刷紙とパールを除く印象評定値に関して最尤法プロマックス回転の因子分析を行った結果，評価性因子，軽明性因子，暖かさ因子が抽出された。赤50，赤200は高い評価性を示し，壁紙としての嗜好性が高いといえる。

5．結果と考察（研究Ⅲ：肌色の印象評価）

肌色の印象評定値に有意な差があるか検討を行うために分散分析を行った。赤50は「きれいに見える」項目の得点が有意に高く，肌色をきれいに見せることが示唆された（$F(4.342, 308.305)=3.933$, $p<.01$）。また印刷紙とパールを除く印象評定値に関して最尤法プロマックス回転の因子分析を行った結果，活動性因子，美肌因子が抽出された。赤50，緑200は全ての因子の得点が高く肌色をきれいに見せる可能性が示唆された。

6．結果と考察（研究Ⅲ：壁紙の適合性）

研究Ⅲのデータに関してコレスポンデンス分析を行った。横軸は色相軸，縦軸は公共性軸とした。公共性の高い部屋では橙50，パールなど親しみやすい壁紙が好まれた。

7．肌色の印象評価に関する補足実験

7.1. 目的

壁紙の前で肌色を測色し，肌色の物理的変化を検討する。

7.2. 方法

壁紙に肌をかざして被験者の内腕の肌色を非接触型分光測色計（SR-3A）を用いて測色した。

7.3. 結果と考察

壁紙がパール，印刷紙のときに肌色のL*値が高くなり肌色を明るく見せた。また壁紙が暖色系のときC*値が高くなり，肌色を鮮やかに見せた。

8．まとめ

壁紙から感じられる印象をふまえ，部屋の用途に合わせた壁紙の色彩を提案する必要性が示唆された。また心理的要因と物理的要因の双方が影響し，壁紙の色彩よって肌色の印象が変化していることが認められた。本研究においては壁紙としての適用性高く，かつ肌色をきれいに見せる壁紙は赤50であることが示唆された。